

【一】

問一
ア

問二
X
イ
Y
ア

問三
ウ

問四
ア

問五
イ

問六
i
エ
ii
ア
iii
イ
iv
ウ

問七
エ

問八
 α
エ
 β
ウ

問九
ウ

【二】

問一
 $\textcircled{1}$
刻
 $\textcircled{2}$
臓
 $\textcircled{3}$
舌
 $\textcircled{4}$
縦
 $\textcircled{5}$
承

問二
 $\textcircled{1}$
衣
 $\textcircled{2}$
塩
 $\textcircled{3}$
花
 $\textcircled{4}$
額
 $\textcircled{5}$
一

【三】

問一
 $\textcircled{A}$
エ
 $\textcircled{B}$
イ
 $\textcircled{C}$
エ
問二
ウ
問三
イ

問四
ウ

問五
ア

問六
(例) うみかは、単に生意気な妹だと思っていたが、実は大好きな宇宙にいる自分を想像すること、日常のつらさに耐えていたのだということ。

問七
(例) 「銀河」に学校に関係ないことを記事にするのは自分が誤解される不安があるものの、うみかから教えてもらったことや自分で調べたことを記事に書いた。それが学級の刊行物になることで誰かが興味を持ってくれたら、間接的にうみかが好きなものが他の人に認められることにもなり、それをうみかにわかってほしいから。

問八
イ

問九
エ

問十
ア

問十一
(例) 他の人の気持ちを考えられないうみかの言動に以前は腹を立てていたが、うみかの大切な夢や、弱みを見せまいと耐えていた本当の姿を知り、素直に謝って互いに寄り添えた。無条件に自分を頼ってくるうみかのことを、今はその不器用さも含めて、愛おしいと思う感情が強くなり、き上がってきている。

受験番号	
氏名	

※評点	
-----	--